ご寄付の使途レポート　No.5　　（2008 年 8 月～12 月分）

2008 年の 8 月から 12 月の間に皆さまからお預かりしたご寄付は合計で 207,341,857 円でした。その 75%に相当する 155,506,393 円の使途および送金先の状況について、以下のとおりご報告申し上げます。

送金国	使途	送金額（円）
インドネシア	復興支援	21,000,000
カンボジア	復興支援	15,000,000
ケニア	学校給食プログラム	10,000,000
スーダン	特別活動（輸送活動）	15,000,000
ソマリア	復興支援	10,000,000
パレスチナ・ガザ地区	特別活動（輸送活動）	12,715,784
フィリピン	緊急支援	10,797,267
ブータン	学校給食プログラム	15,000,000
マラウイ	復興支援	5,000,000
ミャンマー	緊急支援	20,000,000
ミャンマー	復興支援	10,000,000
指定せず	学校給食プログラム	10,867,823
計		155,380,874
未送金		125,519
総合計		155,506,393

(注)　お預かりしたご寄付の 75%は、国連 WFP 協会から WFP 国連世界食糧計画ローマ本部に送金され、開発途上国での人道支援活動に活用され、ご寄付の 25%の範囲内で国内の募金活動費、啓発広報費、管理費等の経費に充当しています。

■インドネシア

プロジェクト：復興と栄養状態回復への支援

（復興支援 ）

実施期間：2008 年 5 月～2010 年 12 月

対象者数：845,000 人

給食に栄養強化ビスケットを配布
©WFP/ Barry Came

インドネシアの経済は安定化の兆しを見せる一方、1997 年−1998 年の経済危機の影響を現在も引きずっています。同国の発展は貧弱な食糧・栄養政策、人材や技術などの資源の不足、近年の食糧や石油価格の高騰などの複雑かつ多岐に亘る要因によって妨げられ、すでに脆弱になっていた経済基盤に追い打ちをかけています。これに加えて、衛生や健康

的な食生活に対する理解の不足が、より状況を悪化させています。WFP は、インドネシア北部と市街地のスラムに暮らす人々に対して、微量栄養素の欠乏などを含む栄養状態の改善を目指した栄養補給を行っています。就学児童には栄養強化ビスケット(50g)を毎日支給しています。こうした給食を学校で支給することにより、児童の出席率、成績などに改善が見られるようになっています。就学児童に加えて、就学前の幼い子どもや妊産婦、授乳中の母親や結核患者など社会的に弱い立場に置かれている人々にも栄養強化を施した食糧を届けています。

■カンボジア

プロジェクト：慢性的な貧困に陥りやすい人々への食糧支援（復興支援）

実施期間：2008 年 1 月～2010 年 12 月　　対象者数：1,782,000 人

カンボジアは東南アジアのなかで最も災害が多発する国のひとつです。数十年にわたる内紛と経済の停滞からは脱しつつありますが、国民は未だ低所得と食糧不足に苦しめられています。2004 年から 2006 年の間に、米作はその 6%が干ばつ、洪水や虫害の被害を受けました。不平等や土地不足といった問題が高じ、地域共有の資源は破壊され、食糧不安を抱えた人々の対応力を蝕みました。貧困層に対する教育や医療サービスなどの機会が限定的であることや、国の公共インフラへの投資水準の低さ・貧弱な管理構造が、特に農村地区に暮らす人々の食糧不安と栄養不足の状態を長期化させています。WFP の救済・復興支援活動は、的を絞った食糧支援を行うことで、社会的に弱い立場に置かれている家庭の対応力や回復力を増進することを目指しています。孤児、HIV 感染者、エイズ患者、結核患者など社会的弱者が暮らす家庭に対する食糧の支援のほかに、災害リスクを軽減するために地域の復興や開発を、食糧支援を通じて後押ししています。職業訓練を通しての食糧支援も行い、飢餓という問題の根本的な解決に努めています。また WFP は、学校給食プログラムの実施や男女間の教育格差を是正するために、特に女子児童に対し「食糧持ち帰りプロジェクト」を行っています。

■ケニア

プロジェクト：学校給食プログラム（社会開発支援）

実施期間：2009 年 1 月～2013 年 12 月

対象者：650,000 人（年間平均）

2003 年に経済再生戦略が発表されてから、ケニアの状況は大幅に改善される一方、社会サービスの普及には地域格差が生じています。貧困レベルは未だ高い水準であり、国民のおよそ半分が貧困線以下の生活を送っています。また、小学校児童の就学率および修了率は、地域だけでなく男女のあいだにも大きな開きがあります。食糧不安を抱える地域において、WFP は毎年平均 65 万人の児童に対し栄養たっぷりの学校給食を提供することを目指し

子どもたちにとって、WFP の給食は希望になっています
©WFP/ Marcus Prior

ています。学校給食プログラムの目的は、衛生・健康・教育のニーズに応え、より多くの貧しい子どもたちが栄養価の高い食事を取ることができるようにするだけでなく、教育の機会を保証することなのです。

■スーダン

プロジェクト：輸送活動（特別活動）

実施期間：2009 年 1 月～2009 年 12 月

輸送路が遮断されてしまった場合に、最終手段として支援物資が空中投下されます
©WFP/ Fred Noy

スーダンはアフリカ最大の国であるとともに、WFP 最大の事業拠点で、ダルフールでの活動は史上最大規模といえます。世界最大の人道危機が続いているダルフールや、復興支援が行われている幾つかの地域では、民間の運輸会社による輸送サービスがなく、WFP のロジスティックス部門の役割はとても重要です。例えば、ダルフールでは治安が悪く陸路で入れない地域の人々に食糧を届ける際、また雨季になると郊外に向かう道の利用が限定的となるため、支援活動をヘリコプターに頼らざるを得なくなります。WFP の輸送機はスーダンの人道支援活動や支援物資のために、安全で信頼できる、またコストの面でも効率の良い交通・運搬手段を提供しています。WFP が提供する輸送サービスは、必要に応じて医療活動や緊急避難時に使用されるほか、200 を超える人道支援機関のために、毎月平均 1 万 4 千もの人々を運んでいます。

■ソマリア

プロジェクト：救援と生活保護のための食糧支援（復興支援）

実施期間：2006 年 8 月～2009 年 3 月　対象者数：2,164,000 人

危機的状況のソマリア
WFP の 支援を待つ乳児と母親
©WFP/ Anja du Toit

アフリカの北東部に位置する「アフリカの角」の一つ、ソマリアは、長引く干ばつに、紛争、インフレ等が重なり、大規模な飢餓が発生しています。15 年以上にわたり中央政府不在の状態にあり、人口の 20%が厳しい栄養不足に苦しむ地域が存在し、世界でもっとも食糧不安にさられている国のひとつです。貧困層や国内避難民の人々は食糧を入手することすら難しい環境下にありますが、紛争などの人為的な原因のみならず、干ばつなどの自然災害により、状況は悪化の一途をたどっています。WFP は長期的な救済・生活保護のための食糧支援活動を通じて人々の生命や日々の暮らしを守ることにより、いずれは国家の安定や、社会的に弱い立場に置かれている家庭の安定的な食糧確保に繋がることを目指しています。WFP は、死の危険にさらされた人の命を守るための食糧支援、地域の発展のため、道路や井戸などの生活基盤の建設・修復工事を行い、働いた人には対価として食糧を配給しています。乳幼児や授乳中の母親および妊婦、HIV 感染者、エイズ患者、結核患者に対して栄養補給を行っています。また、学校給食プログラムを通

じて就学率や出席率を高めることによって、教育の機会を拡大させると同時に、男女格差のない初等教育の実現を目指しています。

■パレスチナ・ガザ地区
プロジェクト：輸送活動（特別活動）
実施期間：2009 年 1 月～2009 年 4 月

深刻な食糧不足が続くガザ　©WFP

2008 年 12 月 27 日にイスラエル軍によるガザへの攻撃が始まりました。パレスチナ自治区ガザで、戦闘の激化に伴い食糧不足が深刻化している事態を受け、WFP は　緊急食糧支援を開始し、活動を拡大させています。WFP はガザ地区への攻撃開始以来、17 万 5 千人以上の人々に 2 ヶ月間分の食糧を配給しています。また、パン屋へ小麦を提供し、約 4 万人の人々がパンの配給を受けました。しかし、停戦後も人口の 8 割が緊急に食糧を必要としています。WFP はガザでの緊急支援活動を「ガザの命綱作戦」と名づけ、今回の戦闘開始前から支援対象としていた 26 万人 5 千人に更に 10 万人を追加し、計 36 万 5 千人へ食糧支援を拡大します。

戦闘は深刻な人道危機をもたらす一方、国連諸機関や NGO などの人道支援機関によるガザへの支援物資の輸送は容易ではなく、困難を極めています。WFP は、国連随一の輸送集団として、緊急支援物資の輸送の全体指揮を行ない、悲惨な状況に置かれる被災者の人々に、支援物資を届けるため最善を尽くして活動に取り組んでいます。

■フィリピン
プロジェクト：ミンダナオ島の紛争被災者への緊急支援
実施期間：2008 年 6 月～2009 年 12 月　　対象者数：1,551,400 人

フィリピン南部のミンダナオ島における紛争は深刻な食糧危機を引き起こし、住民の生命や生活を脅かし続けています。これによって、枯渇した資源、高い飢餓率や栄養不良、戦闘による避難民の発生といった問題が生じています。WFP の推定では、紛争被災地に暮らす人々の 30%が食糧不足の状態に陥り、食事の回数、量を減らしてしのぐなどの対応を強いられています。これに加え、さらに 40%の人々が生活に必要な食糧を調達するために法外な金利でお金を借り、資産を売り払うなど、危機的な生活を送っています。WFP による食糧支援は、紛争によって厳しい暮らしを余儀なくされた家庭に食糧へのアクセスを確保し、消費できるように促進させること、そして破壊または放置されている社会インフラを復旧させることを目的としています。子どもやその母親、避難民などを含む、社会的に弱い立場に置かれている人々の栄養・健康状態の改善、小学校児童の就学率の向上とその維持のために学校給食プログラムを実施しています。また WFP は、長期的な視野に立って、被災者の自立を促すための「フード・フォー・ワーク（労働の対価としての食糧支援）」な

らびに職業訓練を受けた人々に対価として食糧を配給しています。

■ブータン

プロジェクト：農村部における初等教育の普及（学校給食プログラム）

実施期間：2008 年 1 月～2012 年 12 月　　対象者数：37,000 人（年間平均）

ブータンの 65 万人の国民の大半は、道路のない山中の農家で暮らしており、社会福祉サービスを利用できない環境にあります。また、特に作物の収穫時期の数か月間前になると、全人口の 4 分の 1 近くが一時的な食糧不足に陥っている状況です。WFP は、就学児童に栄養たっぷりの給食を提供することで、政府の教育機会の拡大に関する政策を後押ししています。また、就学率の向上のみならず、ヨード、亜鉛、鉄分、ビタミン A といった微量栄養素の欠乏の予防に対する栄養補給も行っています。ブータンでは男子児童と女子児童の就学率に開きがあるため、学校給食プログラムでは女子児童に対し「食糧持ち帰りプロジェクト」を導入するなど、女子の教育の機会を確保しています。

■マラウイ

プロジェクト：自然災害の被災者や HIV 感染者・エイズ患者に対する食糧支援（復興支援）

実施期間：2009 年 1 月～2010 年 12 月

対象者数：3,613,000 人

HIV/エイズ予防教育を行っている様子
©WFP/ Edson Chagara

マラウイのさまざまな地域において、貧困は深刻な問題となっています。1200 万人の人口のおよそ 52%が貧困層とされ、HIV 感染率は成人の 12%にも及びますが、86%以上の国民が農村部に暮らしているため、基礎的な医療サービスや教育を受けることが難しい状況です。こうした危機的な状況に加え、毎年少なくとも 5000 世帯が季節的な洪水などにより被災しています。WFP は、自然災害や HIV / エイズの影響により食糧不足に陥った家庭を支援するほか、栄養不足の子どもたちや乳幼児や授乳中の母親および妊婦、慢性疾患患者およびその家族などに対し、栄養補給を行っています。学校給食プログラムを実施している地域では、農作物の収穫が少ない時期になると未就学児童までもが学校の給食を求めて通学してくるようになります。この問題を改善するため、WFP は各地域の児童所などを通じて、栄養強化ビスケットを配給しています。

■ミャンマー

プロジェクト：サイクロン被災者への緊急支援（緊急支援）

実施期間：2008 年 5 月～2009 年 4 月　　対象者数：750,000 人

昨年 5 月にミャンマー南西部で発生したサイクロン「ナルギス」は、何百もの村を押し流し 13 万を超える人々の命を奪いました。家畜が流され、農地は海水で水浸しになり、備蓄食糧や種子といった資産を失いました。わずかひと晩で 100 万人近くの人々が住居を失い、

食べ物を入手できない状況に追い込まれました。海老養殖場、魚養殖場、孵化場、漁船、その他の生産施設が失われた為、賃金労働に頼っていた人々は困窮に拍車がかかりました。

WFP は 12 か月におよび、緊急・復興支援のほか、もっとも弱い立場に置かれている人々の生活の再建や栄養状態の安定を目的とする食糧支援を行っています。具体的には、被災者家庭の当面の食糧需要を満たす、食糧バスケット（米、豆、食糧油、塩が入っています）等を配給しています。5 歳以下の乳幼児や授乳中の母親および妊婦に対しては、9 カ月にわたっての栄養補給が実施されました。修復再建作業に従事した対価として食糧を配給するフード・フォー・ワーク事業、現金を給付する事業までも実施され、被災者が困難な状況から抜け出されるようにするために、さまざまな支援を行っています。こうした包括的な支援によって、被災者の人々は必要最小限の食糧を入手して、復興に向けての準備に取り掛かっています。

また WFP は被災地で活動する国連諸機関や NGO などの人道支援機関の輸送と緊急通信業務の主導的役割を担い、支援物資の継続的なサプライチェーンの確保と、緊急事態に対応するための人道支援機関間の調整や、物資輸送に必要な情報の管理に必要な通信を確保しています。

■ミャンマー

プロジェクト：ミャンマーの貧困家庭への食糧支援（復興支援）

実施期間：　2007 年 1 月～2009 年 12 月　対象者：1,600,000

ミャンマーのラカイン州北部は、国内で最も辺境にある未開発地域のひとつです。地域に暮らすロヒンギャ族は、イスラム教徒の少数民族で、移動の制約を課せられ、定住地を持てないまま非常に不利な労働環境の下、生活を強いられています。WFP は、常に食糧不安を抱えるこの地域の人々に対して生活の向上に向けた食糧支援を実施しており、作物の収穫量が減る時期に食糧を配給しています。

貧しく孤立した中部乾燥地域では慢性的な食糧不足に苦しんでおり、厳しい天候、灌漑などの農業設備の不足、借地制度の未整備などが原因となって状況は深刻化。WFP は水資源の確保を目的とするフード・フォー・ワーク（労働の対価としての食糧）を通じて、地域に暮らす貧困家庭の支援を行っています。

シャン州では、長いあいだケシ栽培が多くの家庭の生計を支えていましたが、ミャンマー政府がケシ栽培を禁止したことにより、人々の収入は激減、生活は困窮し、深刻な食糧難に陥りました。WFP は、地域住民が生活環境の変化の間も安定的に食糧を得られるように、フード・フォー・ワークや、学校給食プログラムなどを通じて食糧支援を行っています。

※こちらのレポートは、WFP 本部の報告を国連 WFP 協会が翻訳し、まとめています。